

港湾物流に係る皆様へ

～ 港湾労働者の窮状を打開する未来に向けた取り組みへのご理解を訴えます ～

諸物価の高騰の中、大幅賃上げを獲得する必要性

私たち港湾労働者は、貿易立国たる我が国にあって物流を止めることなく、夏は酷暑、冬は厳寒の中の厳しい労働環境で働いています。島国である我が国は、様々な物資・資源・製品ならびに加工品を輸出入しています。私たちは、国民の暮らしを支えていることに誇りを持って日夜仕事をしています。

しかしながら、港湾で働いている私たちの賃金や労働条件は、そうした仕事の価値に見合ったものになっていません。しかも産別最低賃金は2017年以降上がっておらず、初任給は低レベルのままというのが現状です。

このままでは、人員不足が更に深刻化し、仕事が回らなくなり、国民生活に支障をきたすことに不安と危惧をいただいています。

日港協の「不誠実な姿勢」を許さない決意を固めています

私たちは25春闘での産別交渉を日本港運協会（略：日港協）と行っています。ご承知のとおり、政府が大幅賃上げを経団連や労働組合に求めて10%以上の賃上げを、中小企業庁は、価格転嫁を求めて賃上げを後押しする取り組みも行っています。

しかしながら、港湾産業は受注産業の弱点として料金の引き上げが進まず、ユーザー（荷主・船会社）に物価高騰分や労務コストが転嫁できない状況が続いています。

これを打開するためにも、我々港湾労働者の賃金や労働条件の改善に向けて重大な決意をもって、交渉にのぞんでいます。

日港協は、港湾物流を支える港湾労働者の汗と労苦に誠意をもって応えよ！

【3月30日(日)を第一次統一行動として24Hストライキを通告！】

職場は人員不足が常態化し、過密・過重労働が続いています。日港協は、「組合要求を真摯に受け止める」と前置きしますが、回答は不誠実極まりないものです。

個別の労使協議で環境を整えようとするれば、企業間競争とユーザーの圧力で、結果として労務コスト切り下げへと向かうことは、火を見るより明らかです。だから、産別労使が集団的な労使関係の中で働くルール、港湾労働秩序の規範をつくってきました。

全国港湾と港運同盟は、第2回・第3回中央港湾団交での不誠実な回答に大幅修正を求めて、24Hストライキを通告し、実施します。

港湾に係る皆さん、私たちの24Hストライキによって一時的に不便さが出る場合があります。しかし、港湾労働者の労働環境が向上し、安定した仕事を成せばユーザーの皆さんのメリットにつながると確信しています。船社が莫大な利益を上げている中、今春闘で大幅賃上げを獲得するには、日港協として適正料金確保や不当に低い内航フィーダー料金の改善や港湾福利の拡充のための基金の増額で労働環境を充実せしめることが不可欠であると考えています。そのためにも、皆さん方のご理解とご協力が必要です。港湾労働者の未来に向けて、25春闘の前進に向かってストライキの決行を決意し、ここに宣言致します。

2025年3月26日

全国港湾労働組合連合会

中央執行委員長 竹内 一

全日本港湾運輸労働組合同盟

会長 足立 賢次